

学 校 教 育 目 標	力強く生き抜く生徒の育成
目 指 す 学 校 像	生徒が主体的に学び、互いの良さを認め合う、活気ある学校
重 点 目 標	1 自立した学習者の育成（学習者が主体的に学ぶ授業の実施、ICTの効果的な活用） 2 発達支持的生徒指導の充実、不登校生徒等への学習支援、生徒会活動の充実 3 C S（学校運営協議会）の充実、体験活動の充実、地域催事、ボランティア活動への参加 4 安全・安心な教育環境整備（校内安全点検の徹底、安全指導の充実） 5 働き方改革の一層の推進、学校課題研究の推進

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、
方策の評価指標」を設定。

達	A	ほぼ達成（8割以上）
成	B	概ね達成（6割以上）
度	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価	
年 度 目 標				年 度 評 価				実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	【現状】 ○市の学習状況調査では概ね良好な結果である。 また、「将来に夢や希望をもっている」と回答した生徒が、市の平均を上回っている。 ○授業に積極的に参加する生徒が多い。 ○友達と協力することが楽しい生徒が多い。 【課題】 ○市の学習状況調査では、国語に課題が見られる。また、「家で自分で計画を立てて勉強をしているか」との質問で、市の平均を下回る。	基礎的汎用的能力の育成	①「さいたまエンジン」の取組を当該学年以外にも周知する。 ②基礎的汎用的能力の育成を目標にした公開授業を全教員が年1回以上実施し、相互評価を行う。 ③教育データの効果的な利活用について、本校のシステムを構築する。	①基礎的汎用的能力に関する生徒アンケートの結果 ②校内で授業を参観し合う回数が、きちんと達成できているか ③教育データの活用事例を、校内で共有できたか					
		自立した学習者をはぐくむ教育の推進	①「個別最適な学び」と「協働的な学び」、「探究的な学び」を目指した授業改善をおこなう。 ②校内研修でカリマネデザインマップを見直す。	①ICT を活用した協働的な学びが実施できたか ②カリキュラム・マネジメントの実施状況					
2	【現状】 ○大多数の生徒が、相手を思いやる態度や、いじめを許さない心をもっている。 ○長期にわたり欠席している生徒が複数名おり、個に応じた学習に取り組んでいる。 【課題】 ○個別支援が必要と思われる生徒が複数名いる。 ○改訂された生徒指導提要に基づく生徒指導の在り方の見直しを行っているところである。	生徒指導体制、教育相談体制の強化	①いじめ防止の取組を充実させるとともに、いじめ（疑い含む）が発生した場合には組織的にいじめに対応する。 ②欠席が長期にわたる生徒への学習支援について、生徒に寄り添いながら、組織的に支援する。	①学校評価のいじめに関する項目の回答状況 ②不登校生徒が、個に応じた学習支援や関係機関からの支援を受けているか					
		発達支持的生徒指導の推進	①学校の課題を把握し、発達支持的生徒指導を軸に据えた改善策を検討する。 ②生徒指導部や学習部が中心となり、組織的に取り組む。	①学校評価で、「学校へ来るのが楽しい」の項目の回答の状況 ②学校評価の、生徒指導関連項目の回答状況					
3	【現状】 ○地域行事やボランティア活動に、積極的に参加する生徒が多い。 ○学校と地域や保護者の連携については、良好な関係にあると捉えている。 【課題】 ○学校と保護者や地域との連携について、持続可能な形を見直す時期にきている。	学校と家庭、地域の連携	①学校運営協議会では、生徒と一緒に討論する機会を設ける。 ②地域の伝統行事や、ボランティア活動への参加を、積極的に呼びかける。 ③PTA 活動の見直しを行う。	①学校運営協議会委員へのアンケートの回答状況 ②生徒の地域ボランティアの参加率が、昨年度より上昇する					
		教育活動の情報発信	①学校だよりや学校ホームページを活用し、情報発信を行う。 ②保護者連絡アプリ等を導入し、学校の情報が保護者へ直接届くようにツールを活用する。	①学校ホームページの定期更新 ②保護者連絡アプリに関する保護者アンケートの回答状況					
4	【現状】 ○多目的に使用できる部屋の数が少ないが、各種会議や対応の際には協力し合い、工夫して利用している。 【課題】 ○施設設備の老朽化により、安心・安全とは言えない状況があるので、計画的に整備していく必要がある。 ○交通ルールに対する生徒の意識が高いとは言えない状況がある。	安全・安心の教育環境の整備	①毎月の安全点検や日々の日常点検の確実な実施と、迅速な修理等の安全管理を徹底する。 ②交通安全に関して、地域住民と生徒が協議する場を設定する。	①安全点検を確実に実施し、迅速に修繕等の手配を行ったか ②生徒対象の交通安全に関するアンケートで、生徒の意識が上がったか					
		災害時等に備えた体制整備	①水害時の被害を想定した安全点検の実施と、課題に対する対応。 ②危機管理マニュアルを、教職員に周知する。	①学期に一回、水害等を想定した安全点検を実施したか ②危機管理マニュアルに関する校内研修を実施したか					
5	【現状】 ○教職員は、互いに学びあう姿勢で業務に取り組んでいる。 ○研究推進部を中心に、組織的に学校課題研究に取り組んでいる。 【課題】 ○ワークライフバランスの実現ができていない教職員がいる	校内研究体制の充実	①授業研究日が有効に活用できるよう、研究推進部からテーマを発信する等の工夫を行い、授業力の向上を図る ②「生徒が主体的に学ぶ授業」の実現に向け、外部講師を招聘した研修を実施する。	①「学びの指標」アンケートの2回目の結果が、1回目を上回ったか ②外部講師を招聘した校内研修を実施できたか					
		教職員の教育に係る意識や知識の向上（エージェンシーの向上）	①教職員への啓発資料を作成し、掲示もしくは配付する。 ②在校時間や年休取得状況を意識させ、計画的でメリハリのある勤務体制を目指す。	①月に1回程度、啓発資料を作成したか ②職員の時間外在校時間の平均が、昨年度より減少したか					